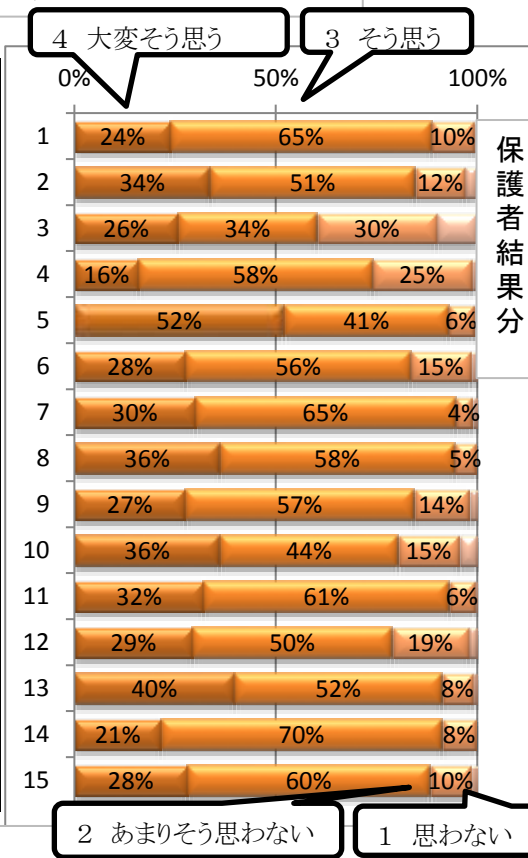


# 平成29年度 玉名市立玉名町小学校 関係者評価(保護者、学校運営協議会)結果報告書

評価について S :十分達成している(3.6以上) A :達成(3.5~3.1) B :おおむね達成(3.0~2.6)  
 C :あまり達成していない(2.5~2.1) D :達成していない(2.0未満) (平均値 2.5)

番号	質問項目	職員	評価	保護者	評価	運営協議会	評価	児童	評価
知育	1 子どもたちは、「授業が分かりやすい」と思っていますか。	2.6	B	3.2	A	3.7	S	3.3	A
	2 子どもたちは、宿題や家庭学習を頑張っていますか。	3.0	B	3.2	A	3.6	S	3.3	A
	3 子どもたちは、読書に意欲的に取り組んでいますか。	3.1	A	2.7	B	3.6	A	2.8	B
	4 子どもたちは、相手を意識した話し方や聞き方ができていますか。	2.4	C	2.9	B	3.2	A	3.0	B
徳育	5 子どもたちは、楽しく学校に通っていますか。	3.2	A	3.5	A	3.8	S	3.5	A
	6 子どもたちは、明るく元気なあいさつができていますか。	2.4	C	3.1	B	3.5	A	3.1	B
	7 学校は、清掃や整理整頓が行き届き、美しい環境を整備していますか。	3.0	B	3.3	A	4.0	S	3.2	A
	8 子どもたちは、いじめをしないなど人権意識が育っていると思われますか。	2.8	B	3.3	A	3.5	A	3.3	A
	9 子どもたちは、約束や決まりを守って生活していますか。	2.9	B	3.1	A	3.6	S	3.4	A
体育	10 子どもたちは、運動や部活動に親しんでいますか。	2.9	B	3.1	B	3.4	A	3.3	A
	11 子どもたちは、健康・安全面に十分注意して生活していますか。	3.0	B	3.2	A	3.6	S	3.3	A
	12 子どもたちは、「早寝・早起き・朝ごはん」の実践ができていますか。	2.9	B	3.0	B	3.1	A	3.4	A
	13 子どもたちは、学校行事に意欲的に参加していますか。	3.3	A	3.4	A	3.9	S	3.6	S
他	14 学校は、子どもたちのよさを伸ばす教育に取り組んでいますか。	3.1	A	3.1	A	3.9	S		
	15 学校は、子どもたちの活動の様子をよく知らせていますか。	3.1	A	3.1	A	3.7	S		



## 【全体的考察】

○昨年度と比較すると、保護者の評価は4項目で昨年度を上回り、逆に2項目が下回る結果となっている。学校運営委員の評価は昨年度を4項目で上回り、7項目で下回った。教師による自己評価は、3項目が上回り4項目が下回る結果となった。

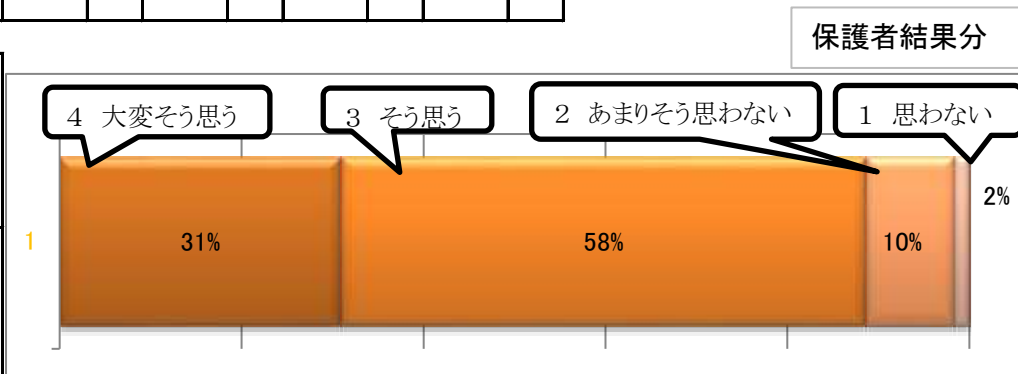
○保護者の評価が高くなった背景には、「授業が楽しい」「楽しく学校に通う」「学校行事に意欲的に参加する」といった項目が多いことから、日常的な取組により、子どもたちの姿に反映されていると考えられる。逆に下がった2項目は「読書」と「早寝早起き朝ごはん」であり、実際に家庭内での姿をそのまま表したものと考える。子どもたちの生活リズムの重要性については、家庭教育に頼る部分も大きいため、定期的な「親の学び」プログラムなどの実施を強化していく必要がある。

○子どもの評価項目「学校行事に意欲的に参加している」がS評価になっている。各委員会活動において自発的な取組を入れたり、バザーにおける子どもブース企画などを取り入れたことで、子どもたちの意欲が高まったと考えられる。また、「授業がわかりやすい」「宿題や家庭学習を頑張っている」がいずれもA評価になってことも、学校全体や学年における授業改善及び家庭学習への取組が成果となって現れている。反面、校舎建築の関係で運動場が十分に使えないことから、運動面・安全面での評価が下がった。

○子どもが楽しく学校に楽しく通っていると答えている保護者、職員が多いことは、一定の成果と言える。また、学校に対して信頼をいただいている最大のポイントでもある。

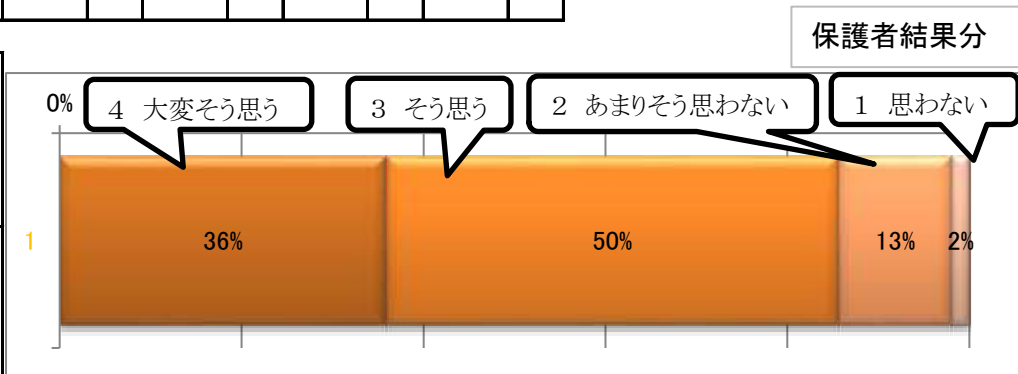
番号	質問項目	職員	評価	保護者	評価	運営協議会	評価	児童	評価
知育 1	子どもたちは、「授業が分かりやすい」と思っていますか。	2.65	B	3.18	A	3.67	S	3.30	A

成果組・状況・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一昨年度から算数科を中心に校内研修をすすめている。「課題設定」「学び合い」「振り返り」の工夫を行い、基礎・基本を習得させ、児童に確かな学力をつけさせることを目指すとともに、主体的・対話的で深い学びのある授業改善を図ってきた。子どもたちが主体的に学ぼうとした成果を保護者は評価している。本年度も全ての研究授業を講師招聘にした効果も見られる。</li> </ul>
次年度の方角性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12%の保護者が「授業が分かりにくい」と答えている。この数値を1割未満にするためにも、一人一人の困り感に寄り添うとともに、日常的な授業改善を図り、子どもたちが主体的に学び、「できた」「分かった」「楽しかった」と実感できるようにしていく。</li> </ul>



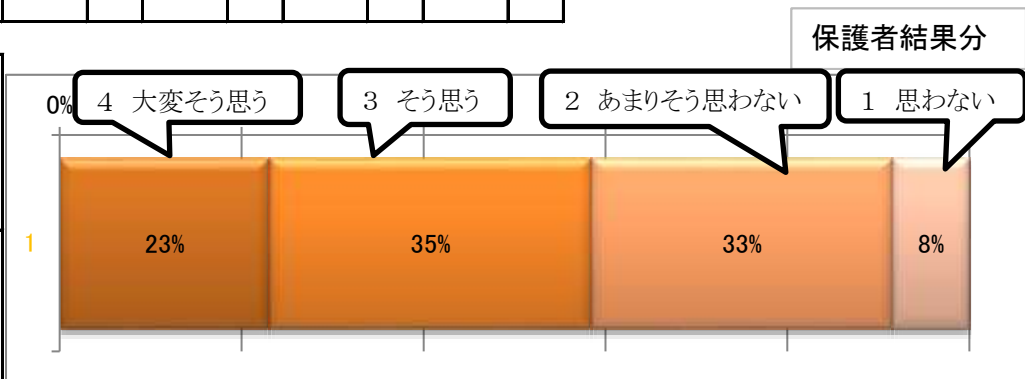
番号	質問項目	職員	評価	保護者	評価	運営協議会	評価	児童	評価
知育 2	子どもたちは、宿題や家庭学習を頑張っていますか。	2.97	B	3.19	A	3.63	S	3.30	A

成果組・状況・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトを中心とした家庭学習の内容の系統性や量についての確認をし、習慣化を図っている。本年度は、家庭学習コンテストも実施したが、取組状況や内容の精選など、未だに学年差・学級差・個人差が課題としてあげられる。</li> </ul>
次年度の方角性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫を見据えた取組を行う。保護者との連携強化はもちろんだが、プロジェクトを中心に、家庭学習の与え方や考え方など「やらされる宿題」から「やりたくなる宿題」について再度検討していく必要がある。</li> </ul>



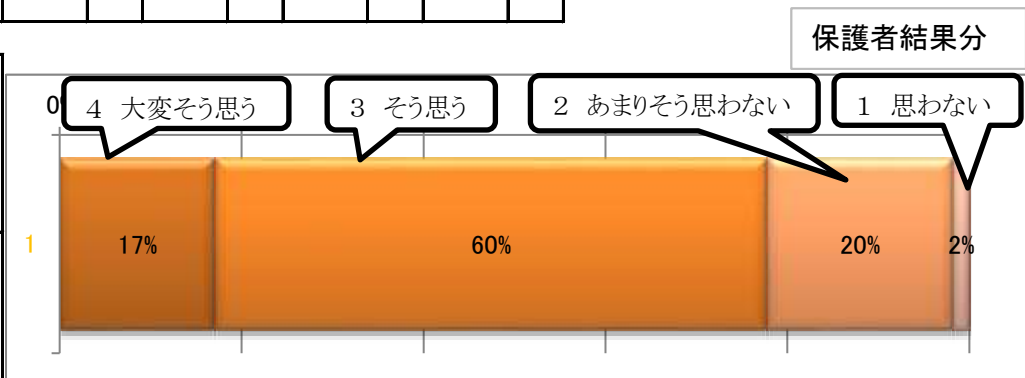
番号	質問項目	職員	評価	保護者	評価	運営協議会	評価	児童	評価
知育 3	子どもたちは、読書に意欲的に取り組んでいますか。	3.12	A	2.74	B	3.56	A	2.77	B

成果組・状況課題	・図書担当、図書室補助員の先生方の努力により魅力のある図書室経営ができています。多読賞の設定や読書祭りなどのイベント、並行読書のすすめ等により、1日当たりの貸出冊数も順調に伸びている。しかし、借りるだけで読む時間が取れないという状況も見られるのが課題である。
次年度の方向性	・図書担当、委員会、保護者ボランティアと読書活動に対する取組はとても充実してきている。それらの活動は継続していくとともに、読書に充てる時間の確保について考えさせるなど、家庭も巻き込んだ取組も必要になってくる。



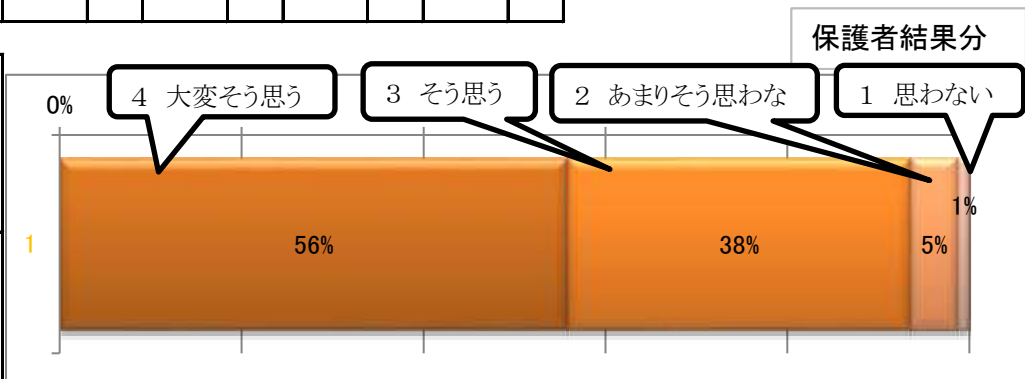
番号	質問項目	職員	評価	保護者	評価	運営協議会	評価	児童	評価
知育 4	子どもたちは、相手を意識した話し方や聞き方ができていますか。	2.41	C	2.93	B	3.22	A	3.00	B

成果組・状況課題	・本年度、学びプロジェクト及び心プロジェクト両方から「温かい学級風土形成」という課題が示され、形式的な話し方だけでなく、相手意識を大切にする情意面の取組を行ってきた。一朝一夕に成果が出ることではないが、継続して取り組む必要がある。
次年度の方向性	・自分の思いや考えを一方的に押しつけた話し方の誤りに気づかせるとともに、聞き手は相手の思いを押し量って聞く姿勢を持つといったトレーニングをプロジェクトからの提案で行う。さらに、授業における対話的な学びを充実させることで日常化を図っていく。



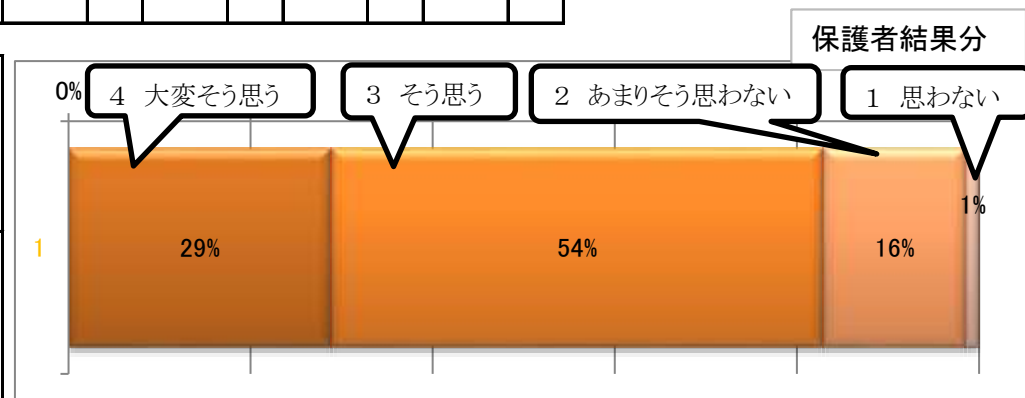
番号	質問項目		職員	評価	保護者	評価	運営協議会	評価	児童	評価
德育	5	子どもたちは、楽しく学校に通っていますか。	3.18	A	3.48	A	3.78	S	3.50	A

成果・状況・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「愛の0・1・2・3運動+1」を常に意識した取組を学校総体として取り組んでいる。欠席者への丁寧な対応や、学年主任・管理職ももに対応しながら、不登校傾向の子どもに対して、早期対応を心がけている。また、保護者を含めた教育相談やSC・SSWとの連携も行うことで、トラブルを未然に防ぐ体制が整ってきた。</li> </ul>
次年度の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての児童が楽しいと感じられるようにするためにも、充実した授業づくりはもちろん、子どもたち同士をつなぐ取組を構築していく。保護者との教育相談も丁寧に行うために、学年主任を中心とした学年部の強化と管理職や専門機関との連携強化を日常的に行う。</li> </ul>



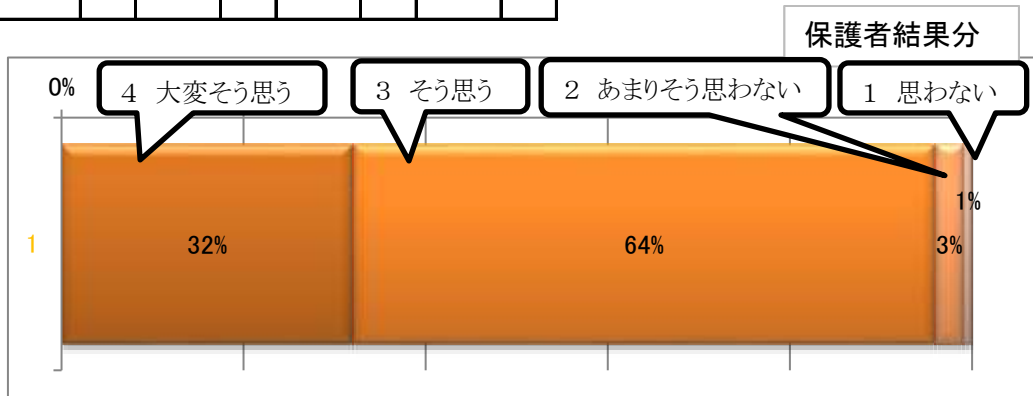
番号	質問項目		職員	評価	保護者	評価	運営協議会	評価	児童	評価
德育	6	子どもたちは、明るく元気なあいさつができていますか。	2.44	C	3.10	B	3.50	A	3.09	B

成果・状況・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内におけるあいさつは、委員会を中心とした「あいさつ運動」などの取組により、かなり充実してきた。しかしながら、校外に出ると声が小さかったり、あいさつそのものを自ら進んで行わなかったりするという課題が挙げられる。</li> </ul>
次年度の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつそのものに個人差が大きいことから、学校全体で取り組むことはもちろん、家庭や地域も巻き込んだ啓発が必要である。児童集会にPTAや地域の方を招き、あいさつに対する必要性を話していただくなどの取組を導入。また、地域との交流を積極的に行うことで、顔見知りを増やしていく必要がある。</li> </ul>



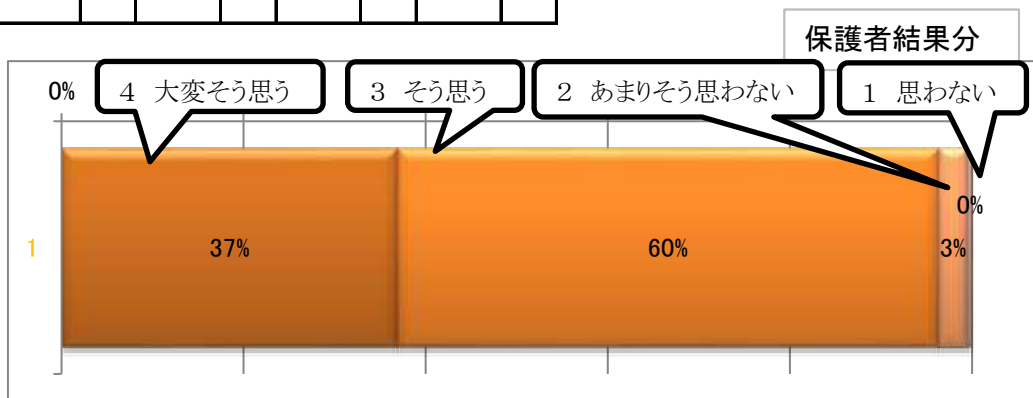
番号	質問項目		職員	評価	保護者	評価	運営協議会	評価	児童	評価
徳育	7	学校は、清掃や整理整頓が行き届き、美しい環境を整備していますか。	2.97	B	3.27	A	3.50	A	3.23	A

成果組・状況・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除指導については、無言掃除の徹底やピカピカ週間を設けて重点的に取り組んできた。学校支援ボランティアの協力により、花の栽培や図書館の整備も計画的に行われている。職員のアイディアや得意を活かした掲示教育も充実している。</li> </ul>
次年度の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無言掃除や高学年を中心とした朝の清掃ボランティア活動については次年度も継続していく。新校舎になり、低学年も掃除場所の担当を拡げ、今まで以上に学校美化への意識を高めさせる。支援ボランティアと連携し花いっぱいの学校づくりを継続する。今後環境面において50年の礎となる意識を持たせた取組を行っていく。</li> </ul>



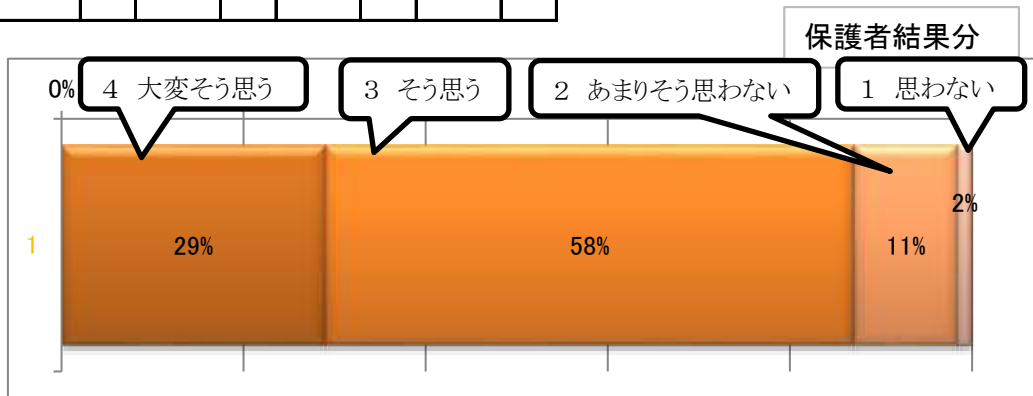
番号	質問項目		職員	評価	保護者	評価	運営協議会	評価	児童	評価
徳育	8	子どもたちは、いじめをしないなど人権意識が育っていると思われますか。	2.76	B	3.32	A	4.00	S	3.31	A

成果組・状況・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめ事案はある」ことを前提に、人権教育、特別支援教育に関する研修の充実を図り、職員の人権感覚と察知能力を高めている。</li> <li>・しかし、隣の友だちを気がけたり、構おうとしたりすることに関しては足りないと感じている職員が多いのも事実である。</li> </ul>
次年度の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の人権感覚を高める研修(児童や保護者に対する接し方などロールプレイを取り入れる)を継続して行うとともに、日常的に子どもたち同士をつなぎ、子どもたちの良さを語り合える取組をプロジェクトを中心とした提案により学校総体で行っていく。</li> </ul>



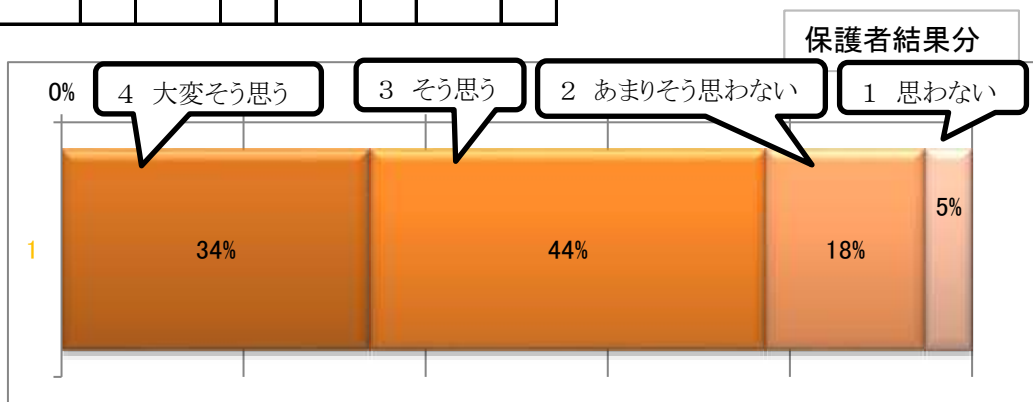
番号	質問項目		職員	評価	保護者	評価	運営協議会	評価	児童	評価
德育	9	子どもたちは、約束や決まりを守って生活していますか。	2.91	B	3.14	A	3.50	A	3.36	A

成取組・状況課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>「町小のきまり」については、これまでなかなか着手できなかった部分について、実態や時代の要請を踏まえて改善を図ってきた。全体的には規範意識も高いため、大きな問題には至っていないが、一部からは靴や靴下についての意見が出ているのも事実である。</li> </ul>
次年度の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで頑なに守り続けてきた「町小のきまり」の中で、妥当性があるものについては引き続き継続して指導すべきと考えるが、実態にそぐわないものや小中連携の点で変更すべき点については、積極的に議論を行い、検討していく。</li> </ul>



番号	質問項目		職員	評価	保護者	評価	運営協議会	評価	児童	評価
体育	10	子どもたちは、運動や部活動に親しんでいますか。	2.88	B	3.06	B	3.40	A	3.28	A

成取組・状況課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>校舎建築に伴う運動場が使用できないことや運動部活動の社会体育移行に向けた縮小により、これまで本校が行ってきたことと同じ成果は求められないのが実情である。部活動の社会体育移行については、保護者との検討会を3回実施し、今後の方向性を確認してきた。</li> </ul>
次年度の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動については、職員の働き方改革も含め、次年度は平日2回の実施とする。週末は社会体育としての実施を視野に入れている。校舎解体工事のため、次年度も10月までは運動場が使えないため、教科体育の充実とともに女子校や体育館・屋上などのスペースを使った体力向上プログラムを構築していく。</li> </ul>



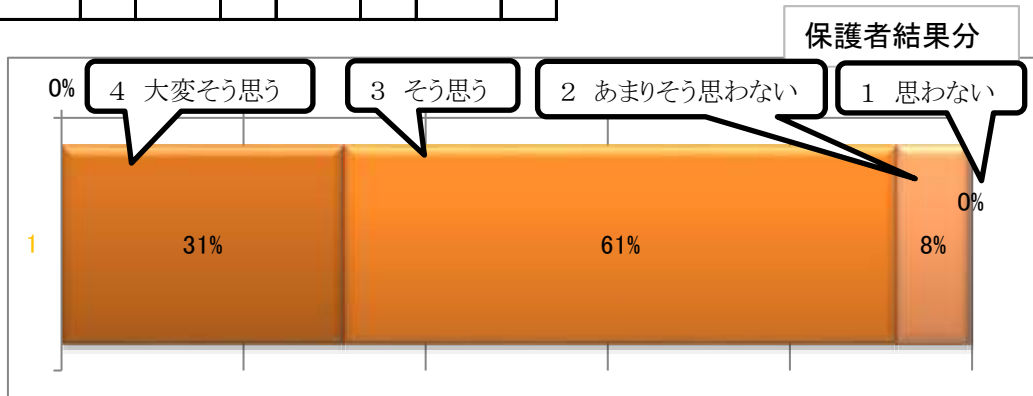
番号	質問項目		職員	評価	保護者	評価	運営協議会	評価	児童	評価
11	体育	子どもたちは、健康・安全面に十分注意して生活していますか。	3.00	B	3.22	A	3.60	S	3.34	A

**成果組・状況課題**

- ・歯の健康集会、命の学習会、薬物乱用防止教室、交通教室などG Tを招き、学年単位で健康・安全面の学習に取り組んできた。校舎解体工事に伴い、通学路の変更もあり、地域での安全な過ごし方や安全な登下校についての指導の継続が必要である。

次年度の  
方向性

- ・通学路の変更については、保護者への周知とともに防犯ボランティアの方々への協力も継続して行っていく。また、狭い路地での登下校の仕方についても、定期的に職員が見回るなど重点的な指導を行う。全学年における「危険予測学習」を導入するなど、学校総体としての取組の充実を図る。



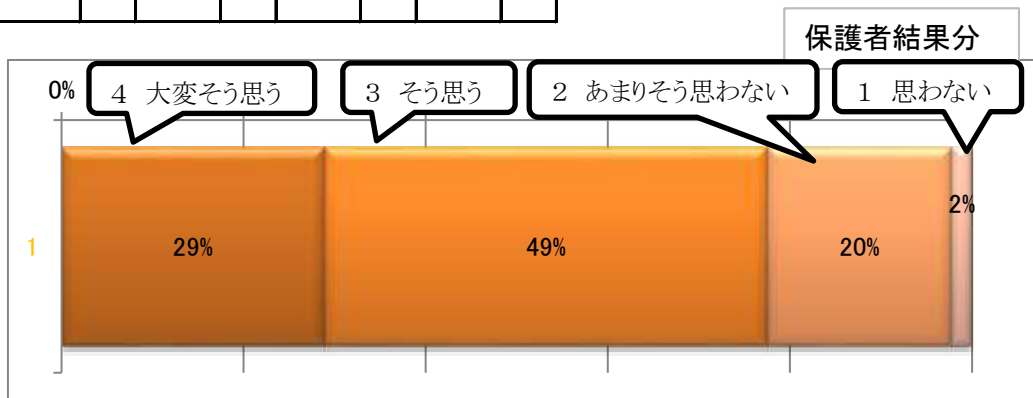
番号	質問項目		職員	評価	保護者	評価	運営協議会	評価	児童	評価
12	体育	子どもたちは、「早寝・早起き・朝ごはん」の実践ができていますか。	2.91	B	3.04	B	3.13	A	3.36	A

**成果組・状況課題**

- ・子どもたちは実践できていると自己評価しているが、保護者や職員の評価は低い。生活リズムそのものに対する意識の違いも考えられる。また、各家庭における意識の差も非常に大きく、家庭教育の差を感じさせられる。

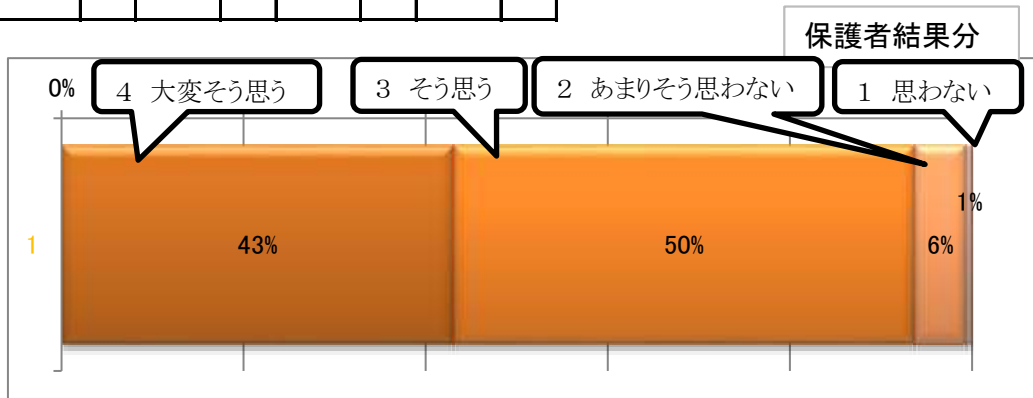
次年度の  
方向性

- ・生活リズムの重要性については、引き続き学校から情報提供を行っていく（学級通信や保健だより）が、子どもたち自身の意識を高めさせるために、委員会活動などで全校児童への問題的などを企画させる。また、家庭教育力の向上を狙った「親の学び」プログラムを積極的に導入するとともに専門機関とも連携を図り、保護者の意識改善を進めていく。



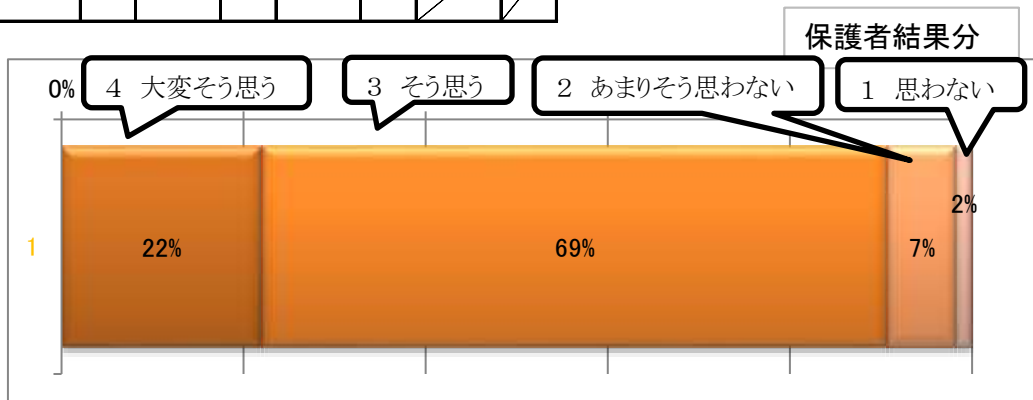
番号	質問項目		職員	評価	保護者	評価	運営協議会	評価	児童	評価
13	体育	子どもたちは、学校行事に意欲的に参加していますか。	3.26	A	3.36	A	3.89	S	3.61	S

成果組・状況課題・	<p>・例年、この項目は高い傾向にあるが、本年度は子どもの評価が「S」になっている。PTAバザーへの参画や花の種から育てた苗の配布など、参加から参画へと変わったことが大きな影響を与えていると考えられる。また、ことある毎にホームページ等で子どもたちの成長の様子を伝えている。</p>
次年度の方向性	<p>・参加→参画が一つのキーワードであるが、さらに学校や地域に対する貢献というキーワードも高めていきたい。様々な行事に対しても、職員から与えられたことに参加するのではなく、自分たちで企画したことを提案し、実践できるような体制を構築し、職員にも「子どもをお客さんにしない」という理念を浸透させていく。</p>



番号	質問項目		職員	評価	保護者	評価	運営協議会	評価	児童	評価
14		学校は、子どもたちのよさを伸ばす教育に取り組んでいますか。	3.11	A	3.11	A	3.89	S	/	/

成果組・状況課題・	<p>・子どもたち一人一人の良さには、「学習面、技能面、運動面、さらに性格面や行動面」など多岐に渡る。それらの中で職員が、子どもたち一人一人をいかに見取り、評価していくのかが問われている。目に見える部分だけでなく、内面も含めた「認め・ほめ・励まし・伸ばす」教育を行うことが求められている。</p>
次年度の方向性	<p>・授業参観や行事等を参観していただく際に、保護者による評価シートを活用することで、客観的な評価を改善に活かしていく。子どもたちの良さを見出すためにも、与えられた体験活動ではなく、自ら切り拓くような体験活動を導入し、子どもたち自身の自己肯定感を高めるとともにそれらを見取る体制づくりを進めていく。</p>





番号	質問項目	職員	評価	保護者	評価	運営協議会	評価	児童	評価
15	学校は、子どもたちの活動の様子をよく知らせていますか。	3.15	A	3.14	A	3.67	S	/	/

<p>成果組 ・状況 ・課題</p>	<p>・本年度も学校ホームページを通して、行事だけでなく子どもたちの様子を紹介した。また、学級、学年だよりの発行、学校運営協議会等でも学校の取組の紹介をこまめに行っている。安心安全メールについては、災害や防犯に関する情報だけでなく、各種行事（見学旅行等）の連絡も迅速であり、役に立っているという意見が多かった。</p>
<p>次年度の 方向性</p>	<p>・学校の様子を伝える手段としてホームページは非常に効果的である。最近では、パソコンでなくてもスマートフォンやタブレットで閲覧も可能なため、安心安全メールと併用することでさらに閲覧回数を増やすことが可能である。また、安心安全メールの加入率を100%になるよう、周知徹底を図っていく。</p>

